

1

地域とともにある学校づくり

品川コミュニティ・スクール

本区では全ての学校を品川コミュニティ・スクールに指定しています。品川コミュニティ・スクールでは、保護者、地域住民、学識経験者等が学校運営に積極的に参画することで、学校と地域住民が一体となって、継続性を保ちながら、教育活動の改善や児童・生徒の健全育成に取り組んでいます。

また、地域全体で学校教育を支援することで、学校の教育活動の充実を目指すとともに、地域の人材の有効活用や地域の教育力の活性化を図っています。

■ 設置する2つの組織

学校運営に参画する「**校区教育協働委員会**」と学校支援を直接行う「**学校支援地域本部**」の2つの組織を同時に設置します。また、それぞれの組織の運営に関わり、学校と地域をつなぐ、**学校地域コーディネーター**を各学校に配置します。



学校地域コーディネーターは、各学校で行われている教育活動を一層充実させるために、学校支援のコーディネートを行う区の会計年度任用職員です。学校が必要としている支援について把握し、それに応じて、組織化した学校支援ボランティアの中から、適切なボランティアを派遣するための連絡・調整を行います。また、企業・NPO・大学等からの学校支援のコーディネートも行います。

さらに、地域の行事や地域での教育活動などについて、地域の要望を学校に伝えるなどの調整をします。

期待される効果

- 1 組織的・継続的な体制の構築 = **持続可能性**
- 2 当事者意識・役割分担 = **社会総掛かり**
- 3 目標・ビジョンを共有した「**協働**」活動

4つの魅力

子どもに とっての魅力

- 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

教職員に とっての魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できます。

保護者に とっての魅力

- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

地域の人々に とっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや、やりがいにつながります。
- 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制等が構築できます。

品川地域未来塾

放課後や夏休みなどの長期休業期間中を利用して行う学習教室を全校で実施しています。

補習や定期考査対策、英検合格講座など、地域の方や大学生等が講師となり子どもたちの学習指導を行っています。



2

3校種体制における学校教育の推進 小学校・中学校・義務教育学校

平成27年の学校教育法の一部改正に伴い、平成18年度から順次設置してきた施設一体型小中一貫校6校を平成28年度に「義務教育学校」として位置付けました。

現在、小学校、中学校、義務教育学校の3つの校種を設置しています。

品川区が設置している3つの校種



小学校

1～6年生が在籍します。区内に31校の区立小学校があります。



中学校

7～9年生が在籍します。区内に9校の区立中学校があります。



義務教育学校

1～9年生が在籍します。第1学年～第6学年を前期課程、第7学年～第9学年を後期課程と言います。区内に6校の区立義務教育学校があります。

一貫教育の連携グループの設定

義務教育9年間の一貫教育における「連携グループ」を中学校・義務教育学校(後期課程)ごとに設定しました。「連携グループ」は1つの中学校・義務教育学校(後期課程)と、通学区域を共有する1～3校の小学校・義務教育学校(前期課程)とで構成しています。

東海中 城南小 浅間台小 城南第二小	大崎中 三木小 芳水小	浜川中 鯨浜小 立会小 浜川小	鈴ヶ森中 鈴ヶ森小
富士見台中 伊藤小 上神明小	荏原第一中 後地小 小山台小 第四日野小	荏原第五中 源氏前小 旗台小 清水台小	荏原第六中 小山小 第二延山小
戸越台中 京陽小 宮前小	日野学園(後期課程) 第一日野小 前期課程 第三日野小	伊藤学園(後期課程) 大井第一小 前期課程 山中小	八潮学園(後期課程) 前期課程
荏原平塚学園(後期課程) 中延小 前期課程 延山小	品川学園(後期課程) 台場小 前期課程 御殿山小	豊葉の杜学園(後期課程) 大原小 前期課程 戸越小	赤字 ……小学校 緑色 ……中学校 青色 ……義務教育学校

3

9年間の一貫したカリキュラム 品川区立学校教育要領

義務教育9年間を通して、より充実した学びを得られるよう、各教科の系統性を明確に示した、「品川区立学校教育要領」を作成しています。また、1年生からの「英語科」や、「市民科」など、品川独自のカリキュラムを定めています。

品川教育の方向性を踏まえた重点

「品川区立学校教育要領」では、重点として次の4点を示しています。

「知・徳・体」を
バランスよく
兼ね備えること

困難に負けず
生き抜く力を
もつこと

地域に愛着をもち、
地域の一員として
社会に貢献すること

伝統と文化を
尊重するとともに
国際的な視野をもつこと



次代を力強く生きる児童・生徒の育成

品川独自のカリキュラム

英語科

p.7~8

市民科

p.9~10

品川教育の取組

各教科のカリキュラムに一貫性をもたせるだけでなく、今日的な教育課題への取組の充実を図るとともに、その成果を検証する学力定着度調査や児童・生徒、保護者アンケート、品川区固有教員の任用などの取組も行っています。

しながわ
多様性理解・多文化共生

p.11

体力向上

p.12

ICTの活用

p.13~14

特別支援教育

p.15~16

いじめ防止対策

p.17

不登校支援

p.18

学力定着度調査の実施

2年生以上の各学年では、毎年4月に前年度までに学んだ内容の定着度を測る調査を実施しています。各学校では一人一人の経年変化を追うことにより、個々の学力の伸びや課題を把握するとともに、授業改善に役立てています。

児童・生徒、保護者アンケート

児童・生徒対象に学校や家での勉強の様子や生活についてのアンケート調査を行うことで集団の状況を把握し、教育活動の改善に役立てています。

また、保護者対象に、家庭での様子、学校や品川区の教育施策に関するアンケートを行い、品川教育のより一層の充実を図っています。

品川区固有教員の任用

他地区に異動することなく、将来にわたり品川の教育の中核を担う人材を確保・育成することを目的として、平成21年度から区独自に教員を任用しています。

区固有教員は、本区の一貫教育や「市民科」の推進、学校と地域・保護者との信頼関係の向上に力を発揮しています。